

海水浴場に関する海岸工学的研究 (10)

関西大学工学部 正員 ○ 島 田 広 昭
 関西大学工学部 正員 井 上 雅 夫

1. ま え が き

著者らは、人工海浜の計画基準を作成する際に必要な基礎資料を得る目的で、養浜などによって新設された海水浴場において、人工海浜に対する利用者の意識調査を行い、人工的な海水浴場と自然状態に近い海水浴場に対する利用者の意識の違いを明らかにしようとした。そこで本研究では、施工規模の異なる養浜によって造成された3つの海水浴場において、利用者に対するアンケート調査を行い、意識の違いを検討した。

2. 調 査 方 法

調査は、図-1(a)~(c)に示すように、岩場に新設された淡輪海水浴場、古くから砂浜ではあったが砂の流失が著しいため養浜を施工した須磨海岸東部の公園前海水浴場および突堤がある程度で自然海浜に近い西部の駅前海水浴場の3ヶ所において、1984年7月24日から8月3日までの平日各2日間ずつ合計6日間、直接面接法によるアンケート調査を行った。

3. 調査結果およびその考察

図-2には、須磨海水浴場においての公園前と駅前の選択理由を百分率で示した。これから、須磨では、養浜された浜に対する興味や自然的な浜であるという理由で選ぶ人はわずかであり、その利用交通機関が大きく影響するようである。図-3には、養浜された浜（駅前の場合は公園前の浜）についての印象をまとめた。これから、「人工的な感じがする」と答えた人は淡輪40%、公園前23%、駅前32%であり、淡輪と公園前については養浜の程度の差がそのまま印象の違いとなり現われたものと思われる。しかしながら、いずれの海水浴場でも過半数の人が自然の浜と変らない印象を持っているようである。また、図-4の養浜の必要性については、養浜の印象と同様に養浜の程度によって必要性に対する意識も変化しているが、「必要」、「どちらでもよい」と答え、養浜を一応肯定している人がいずれも80%以上である。このことから、利用者は養浜が施工されていることに対する意識は薄い、それに対

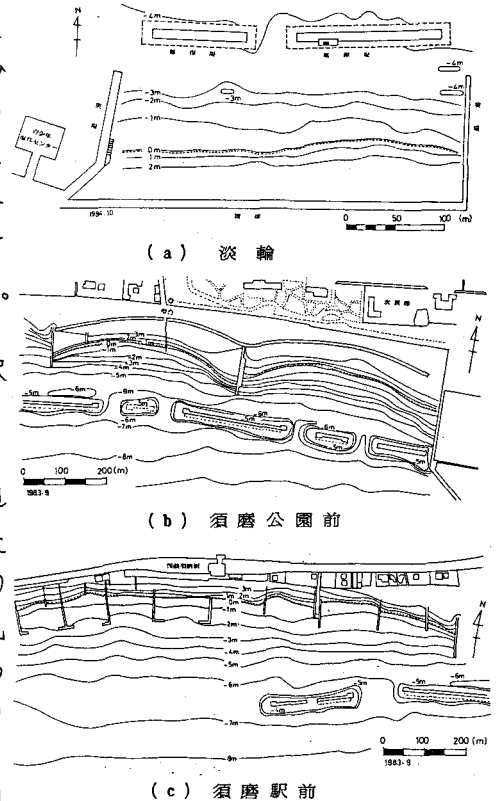


図-1 各海水浴場の平面図

公園前	A. 針束場がある B. 養浜された浜に興味がある C. 浜が広い D. その他		
	A 35	B 12	C 53
駅前	A. 近い B. 自然的である C. その他		
	A 74	B 5	C 21

図-2 公園前と駅前の選択理由

する評価は高い。図-5は海岸構造物に対する印象をまとめたもので、いずれも過半数の人が「景観を損う」と答えている。また、その理由としてはほとんどの人が「水平線が見えない」、「目障り」と答えている。しかし、図-6に示したように安全面から海岸構造物をみると、いずれも80%以上の人が「ある方がよい」と答えており、その理由として過半数の人が「波高が低くなる」と答えている。これらのことから海岸構造物については景観を損うが波高が低くなるなど安全面からはある方がよいと評価している。また、その設置目的を質問したところ、淡輪で52%、公園前で44%、駅前で35%の人が「知っている」と答え、そのほとんどの人が利用者を守るためと答えている。図-7には、最も景観を損う海岸構造物についてまとめた。これによると、最も景観を損うものは離岸堤であり、その設置がなく、側方に公園前のものが見える程度の駅前では、離岸堤と突堤がほぼ同じである。図-8には、海水浴場を決める評価基準をまとめた。これによると、選択するときの基準は、淡輪では「水がきれい」、須磨では「地理的に近い」と「交通条件がよい」と答えた人がほぼ半数を占めている。また、いずれも「景観」や「施設」と答えた人はほとんどいない。このことから、大都市近郊型の海水浴場を選ぶ際の基準は、地理および交通条件と水質の2つのようである。図-9は各海水浴場を利用しての総合的な満足度をまとめたものであり、海水浴場名の下百分率は直接満足したかどうかを質問し、「満足である」と答えた人の割合である。この図から、淡輪では須磨に比べ「大いに不満」、「不満」と答えた人がかなり少ない。これは須磨では地理および交通条件は満たされているものの水質が悪いためと思われる。また、駅前の満足度はやや低く、このことから養浜の施工や海岸構造物の有無は総合的な満足度に対して大きなマイナス要因にはなっていないようである。最後に、各種の資料を快く提供していただいた関係官庁の各位および現地調査に熱心に助力してくれた関西大学の学生諸君に謝意を表する。

A.自然の浜と変わらない B.人工的な感じがする

淡輪	A 60	B 40
公園前	A 77	B 23
駅前	A 68	B 32

図-3 養浜の印象

A.何も感じない B.景観を損う
B(a.低い b.水平線が見えない c.目障り d.その他)

淡輪	A 45	B 55 a 19 b 14 c 21 d 5			
公園前	A 42	B 58 a 12 b 10 c 31 d 5			
駅前	A 49	B 51 a 9 b 5 c 32 d 5			

図-5 海岸構造物の印象

A.必要 B.どちらでもよい C.不要

淡輪	A 83	B 13	C 4
公園前	A 73	B 19	C 8
駅前	A 59	B 24	C 17

図-4 養浜の必要性

A.ある方がよい B.ない方がよい C.どちらでもよい
A(a.波高が低くなる b.流れが速くなる c.その他)

淡輪	A 87 a 57	b 20	c 10	B 6	C 7
公園前	A 84 a 43	b 26	c 15	B 5	C 11
駅前	A 81 a 40	b 29	c 12	B 8	C 11

図-6 海岸構造物の安全性

A.遊歩道 B.突堤 C.護岸 D.その他

淡輪	A 64	B 10	C 23
公園前	A 73	B 11	D 15
駅前	A 42	B 31	D 22

図-7 最も景観を損う海岸構造物

図-8には、海水浴場を決める評価基準をまとめた。これによると、選択するときの基準は、淡輪では「水がきれい」、須磨では「地理的に近い」と「交通条件がよい」と答えた人がほぼ半数を占めている。また、いずれも「景観」や「施設」と答えた人はほとんどいない。このことから、大都市近郊型の海水浴場を選ぶ際の基準は、地理および交通条件と水質の2つのようである。図-9は各海水浴場を利用しての総合的な満足度をまとめたものであり、海水浴場名の下百分率は直接満足したかどうかを質問し、「満足である」と答えた人の割合である。この図から、淡輪では須磨に比べ「大いに不満」、「不満」と答えた人がかなり少ない。これは須磨では地理および交通条件は満たされているものの水質が悪いためと思われる。また、駅前の満足度はやや低く、このことから養浜の施工や海岸構造物の有無は総合的な満足度に対して大きなマイナス要因にはなっていないようである。最後に、各種の資料を快く提供していただいた関係官庁の各位および現地調査に熱心に助力してくれた関西大学の学生諸君に謝意を表する。

A.遊歩道に近いこと B.交通条件が発達していること
C.施設が整っていること D.砂浜がきれいなこと
E.水がきれいなこと F.景観がよいこと G.その他

淡輪	A 24	B 10	C 5	E 54
公園前	A 40	B 14	D 5	E 32
駅前	A 37	B 11	D 7	E 41

図-8 海水浴場の評価基準

A.十分満足した B.満足した C.こんなものである
D.不満である E.大いに不満である

淡輪	A 11	B 45	C 41
公園前	A 7	B 29	C 54
駅前	A 5	B 28	C 53

図-9 各海水浴場の総合満足度